

M 4 終了。

ぼく

人を呪わば穴二つ・・・。

ジュガシビリ

そりゃ指導者になりたいよ。誰も殺さない、平和を築く指導者だ。このペットのように。(餌をやる) 私は、大きな愛を忘れていたんだ。大きな愛を与えられる立場だったのに、出来なかった。ねえ。地球に生まれる権利、ゆずってくれないかね? もしもう一度生まれたら、今度は地球にとって、いいことが出来るんだがねえ。

ぼく

ダメですよ。

ジュガシビリ

ダメかね。それは残念だ。じゃあ、君に頼むよ。

ぼく

ぼくに?

ジュガシビリ

そう。地球をよくしておくれ。我が輩からの頼みだ。

ぼく

考えてみるよ。さようなら。

M 4 A 「ワープ→コンスエロ (M 3 B・M 2 B リプライズ/BGM)」

ワープの音楽。照明と映像変化して、ジュガシビリ退場。

コンスエロ

どうだった?

ぼく

あの人は、かつて有名な人だったよね。

コンスエロ

とても有名だった。

ぼく

でも孤独だった。あの人は、孤独を学んだんだ。

コンスエロ

その通り。地球では孤独を学べるのさ。

サンテック

君が望めば、そういう孤独な人生にできるよ。たとえば・・・。

ぼく

たとえば?

サンテック

クラス全員から嫌われるとか。

ぼく

いやだな。

サンテック

会社全員からハブられるとか。

ぼく

まっぴらだよ、サンテック。(コンスエロに) 次の人に会ってみたい。

コンスエロ

次は、女性だ。第四宇宙にいる。地球でたっぷり経験してきた人だよ。

ぼく

行こう。

コンスエロ

では、出発だ。

M 4 B 「ワープ→マリー (BGM)」

コンスエロ、両手を上げて宇宙を移動(ワープ)する。照明・映像変化。2番目の人物、マリー(女性)が登場。

コンスエロ

マリ

この星に住む女性だ。名前はマリ。ケーキ屋さんをやっている。いらつしゃい。おいしいケーキがたくさんありますよ。どうぞ見て行つて。

ぼく

うわあ。これはすごい。ケーキの家だ。

マリ

シュークリーム、イチゴのタルト、あんずのケーキ、おいしいおいしい絶品チーズケーキいかが？

ぼく

ひとついただきます。(食べる動き)

マリ

おいしい？

ぼく

うん。おいしいです。

マリ

うれしい。

ぼく

どうして、ケーキ屋さんをやっているんですか？

マリ

地球にいた時は、やりたくても出来なかったから。今は思う存分やっているの。

ぼく

どうしてできなかったの？

マリ

仕方ないのよ。ある偉い人の娘に生まれて、14歳で見知らぬ外国に嫁いだ。つまり、政略結婚ね。大きな屋敷に住まわされて、ケーキ屋になるなんて、夢のまた夢だった。

ぼく

へえー。そんなことがあるんだ。結婚したのは、好きな人だったのですか？

マリ

全然。会ったこともない人で。この人と結婚しなさいと言われてただけ。彼も私の愛し方が分からなかったみたいで、結婚してしばらくは処女のままだったわ。

ぼく

ひゃあー。

マリ

私は頑張ったのよ。前向きになろうって努力したわ。外国の嫁って言われて、評判は悪かったけどさ、嫁いだ先に溶け込もうって努力はしたの。でも、全部が裏目に出て、私たちは家から逃げ出さなきゃいけなくなった。そしたら途中で捕まってさ、みじめだったわ。家族ともども牢獄へ閉じ込められた。

ぼく

なぜそんなことに。

マリ

そういう時代だった。エネルギーが爆発して、巻き込まれてしまったのよ。そんな私にも、本当に愛せる人が一人だけいたの。ああ、ハンスという名前のその人は、外国人だったけど、かっこよかった。彼も私のこと愛していたけど、私は人妻。許されぬ恋愛だった。

M5「鎖(くさり)」

マリ

何ひとつ思い通りに (サンテックとコンスエロ) フ
ならない

アアアア